

6年2組

想いをかたちに

～【未来につながる森林プロジェクト】ベンチ贈呈まで～



☆MIDORI 長野 りんごの広場にてベンチ展示 ～たくさんの人に想いを伝えたい～

「県産材を使うことが、身近な森林を守ることにつながる。だとしたら、自分たちにも何かできることがしたい。」そう願って始まった未来につながる森林プロジェクト。SさんとTさんがMIDORIの峯村さんと連絡を取り合い、設置のお願いをしたのが9月下旬。「危機管理の問題から設置は難しいですが展示のみなら」と提案していただき、2月7日からの展示が決まりました。連絡を取り始めてから約4ヶ月。ようやくその日を迎えることができました。峯村さんから「せっかくなら10基全て展示されてはどうか」と提案していただき、製作した10基を展示させていただくことになりました。

朝は、Aグループの子どもたちでトラックにベンチを積み上げました。炭平コーポレーションの玉木さんが3台のトラックを手配してくださいました。「お忙しい中、申し訳ありません。本当にありがとうございます」とお伝えすると、「こういう状況の中ですけど、何とかしてあげたいなとずっと思っていて。子どもたちのやりたいことが実現できたこと、その力になれることが嬉しいです。」と玉木さんは仰ってくださいました。昨年度から森林の活動を通して様々な方と出会ってきましたが、みなさん、同じようなことを仰ってくださいました。今回MIDORIの展示に駆けつけてくれた瑞穂木材の宮崎専務も「この子どもたちだから協力したいなって思えたんです」と仰っていました。



その後、Bグループの友だちと合流し、開店前のMIDORI長野へ。この日初めて会う峯村さんに挨拶をし、ベンチの設置がスタートしました。炭平コーポレーションの方やMIDORIのスタッフの方に3階までベンチを持ち上げていただき、その後の作業は子どもたちで行いました。分散登校中でしたので、meetを使っての打ち合わせを行って当日を迎えたのですが、打ち合わせが十分にできていない部分も、一人ひとりが今何をすべきなのかを考え、臨機応変に動いている姿がとても頼もしかったです。作業が全て終了すると、Y・Sくんがしゃがみながらじっとベンチを見つめていました。「どうしたの?」と声をかけると、「自分達で考えて、ここまでやってきたんだなあって」とYくんは答えました。学習の中で県産材の利用が森林の未来につながっていくことを知り、自分達もその力になりたいという想いをもって始めたベンチ作りでしたが、最初は「本当に自分達だけがこのような活動をしているだけで意味があるのかな」そんな不安も聞こえてきました。それでも、「挑戦してみなければ分からない」「少しの人だけにでも森林の現状や木の魅力を伝えることができれば、そこから広がっていくかもしれない」そんな想いを共有し、多くの方との出会いの中で学び、自分達の想いをかたちにしてきた子どもたち。そんな子どもたちの力には何度も驚かされてきました。この日のY・Wくんのふり返りには、「今日はいよいよMIDORIのりんごの広場に僕たちのベンチを展示する日でした。僕はベンチを置かせてもらっているときに、これを見た人がどんなことを思ったかなどを聞けたらなと思いました。これをきっかけにもっと数多くの人達に広げられるように活動を行い、努力していきたいです。」と綴っていました。「置いている」ではなく、「置かせてもらっている」という言葉。そこには、様々な方の協力があって自分達の想いを伝える場をいただいているという「御陰様」を感じながら活動していたY・Wくんがいたのだと思います。そして、やはり気になるのは「見てくださった人がどんなことを思ったか」

どうしたの?」と声をかけると、「自分達で考えて、ここまでやってきたんだなあって」とYくんは答えました。学習の中で県産材の利用が森林の未来につながっていくことを知り、自分達もその力になりたいという想いをもって始めたベンチ作りでしたが、最初は「本当に自分達だけがこのような活動をしているだけで意味があるのかな」そんな不安も聞こえてきました。それでも、「挑戦してみなければ分からない」「少しの人だけにでも森林の現状や木の魅力を伝えることができれば、そこから広がっていくかもしれない」そんな想いを共有し、多くの方との出会いの中で学び、自分達の想いをかたちにしてきた子どもたち。そんな子どもたちの力には何度も驚かされてきました。この日のY・Wくんのふり返りには、「今日はいよいよMIDORIのりんごの広場に僕たちのベンチを展示する日でした。僕はベンチを置かせてもらっているときに、これを見た人がどんなことを思ったかなどを聞けたらなと思いました。これをきっかけにもっと数多くの人達に広げられるように活動を行い、努力していきたいです。」と綴っていました。「置いている」ではなく、「置かせてもらっている」という言葉。そこには、様々な方の協力があって自分達の想いを伝える場をいただいているという「御陰様」を感じながら活動していたY・Wくんがいたのだと思います。そして、やはり気になるのは「見てくださった人がどんなことを思ったか」

ということです。次の日の夕方、りんごの広場に行き、1時間程様子を見てきました。キノハナを見て驚く方、ベンチを見て「おしゃれ～！」と言っていく方など、多くの方が見てくださっていることが分かりました。掲示物までじっくり見ている方が何人かいらっしゃったので、少しお話を伺いました。中には新聞を見て来てくださった方もいました。「森林の始まりから終わりまでを全て学習していることがすごいですね。なかなかできることではないですよ。」「森林税って初めて聞きました。どういうものなんですか。」「木を使うことが森林のためになるんですね。そういえばこの前テレビで、海での養殖業のことをやっていて、森林からの水がすごく大切だと言っていました。養殖業を守るために森林から守ることが必要なんですね。」と、子どもたちの活動に興味をもっていただき、そこから森林についての話題にも広がっていききました。子どもたちの想いは間違いなく伝わっているということをお話しながら実感でき、とても嬉しく思いました。また、ベンチに座っていただくと、その座り心地や触り心地に大変驚かされていました。「これはサンダーを使って磨いたんですか？」と聞かれたので、「子どもたちが手で紙やすりを使って磨きました」と答えると、「手でやったんですか!？」と驚かされていました。これから設置させていただく場所でも、多くの方に座っていただき、木の魅力や森林のことに興味をもってもらえるのではないかなと感じました。



☆ベンチを届けるのは嬉しいけど、少し寂しい

3月2日(水)～11日(金)にかけて、子どもたちが作ったベンチの贈呈式を行ってきました。贈呈式は、どの場所も子どもたちが自分達で計画し、進行していました。

「贈呈式の臨み方によって相手の方への伝わり方が全く違くなってしまいます。だから、しっかり自分達の想いを届けたい。」そんな願いをもった子どもたちは、進行の仕方からその場で語る言葉までしっかり時間をかけて考えました。森林のことを学習し、自分達にできることを考え、一生懸命制作してきたベンチを引き渡す子どもたちの素敵な表情、これまでの学びから出てくる言葉、そして、その想いに協力してくださった方々の笑顔。どの贈呈式でも子どもたちの大きな成長を感じ、担任としてとても幸せな時間となりました。

夏休み明けから動き出した未来につながる森林プロジェクト。県産材を使って自分達の想いを発信したいと願い、様々な施設に自分達でベンチの設置を交渉し、使う木を決め、設計図や木取り図を作り、自分達の手で作りに上げてきたベンチ。「こんなに大きな活動になると思っていなかった」と話す子もいました。

学校に残ったベンチは2基。「多くの方にベンチに座ってもらい、木の魅力を味わってもらいたい」「ベンチに座ったり、ポスターを見たりして、少しでも森林のことについて興味をもってもらいたい」そんな想いをもって寄贈することを決め、制作してきたのですが、いざ寄贈する日が近づくと、「なんかちょっと寂しい。なんか嬉しいのと寂しいのと半分ずつな感じ」と呟くR・Mさん。私自身も同じようなことを思っていました。それは、ベンチを通して伝えたいことがあるということ、そして、苦勞して作ったベンチは自分達の想いのこもったものであり、自分達のものとなっているということ、その両方が織り交ざったような気持ちは、これまでの活動への向き合い方から生まれてきたものだと思うのです。ベンチを届けた日、「また会いに来るからね」とベンチに話しかけている子もいました。

【ベンチを設置させていただいた場所】

3月	2日(水)	柳原交流センター
3月	7日(月)	みーるマ～マ
3月	8日(火)	信州大学教育学部
3月	9日(水)	ふくおか耳鼻咽喉科
3月	10日(木)	附属長野小学校
3月	11日(金)	北相木村キノハナ Kinano



贈呈式では、その施設の担当の方々が対応してくださいました。子どもたちの話を聞き、泣いて喜んでくださる方、ベンチに腰掛けて手すりを擦りながら「よく磨いてあってすごいね」と言ってくださる方、「このベンチは皆さんが木にもう一度命を吹き込んだもの。これから先長く使っていけるように大切にします。」と話をしてくださった方、どの方もベンチを見て、子どもたちの背景まで感じ取ってくださいっていました。

一つのことを見つめていくと、私たちが今まで知らなかったことが見えてきます。見えてきたものをさらに追究していくと思ってもよらないことに出会います。その中で、人とつながり、想いを共有します。すると、今まで通り過ぎてしまっていたものが、私が見つめる対象として見えてきます。そうしたとき、私たちは、私自身の生き方をより豊かにしていけると思うのです。これからも多くのことに挑戦し、私の幸せを自分の手でしっかりとつかみとってほしいと思います。

～ベンチ贈呈式の様子～

